

## ISISの思想

(イランラジオ日本語放送 2015.02.22 21:42)

「テロ組織ISISとは？」では、ISISというテロ組織が生まれた経緯について、またISISはどのような思想を持つどのようなグループなのかについて見ていきます。

ここ数日、世界のメディアでは、シリアやイラク、さらにリビアでのISISの犯罪が伝えられています。アメリカを筆頭に、西側やアラブの国々は、「ISISを根絶する」と主張しています。しかし、彼らの空爆にも拘わらず、ISISは依然として、シリアやイラクで犯罪を続けています。

この番組では、ISISがどのようにして生まれたのかに始まり、この組織の思想や活動方法、暴力的な行動や犯罪、このグループと他国との関係、対ISIS国際連合の目的、その他、このグループに関する問題について検討していく予定です。

アメリカが主導する対ISIS国際連合の真の目的は、果たしてISISを消滅させることなのでしょうか？ なぜこの連合は、今の時期に結成されたのでしょうか？ また、40カ国が動員されなければならないほど、ISISは強大な組織なのでしょうか？ なぜアメリカ政府は、ISISの消滅には長い時間が必要だと繰り返し強調しているのでしょうか？ 彼らの目的がISISの消滅であることを信じてよいのでしょうか？ 常に移動を続けるテロ組織を、空爆によって消滅させることなどできるのでしょうか？ なぜISISは、イスラムのスローガンを叫びながら、シオニスト政権イスラエルとは敵対していないのでしょうか？

これからお送りするこの番組の中で、これらの質問への回答を中心に、ISISが誕生した経緯、この組織の犯罪や暴力的な行動、それに対するアメリカなど西側諸国の反応、そして対ISIS連合結成の目的についてお話ししていきます。

中東は、何年も前からテロの問題を抱えていました。しかし、この暴力的な現象は、最近、中東地域の最大の危機となりつつあります。現在、この問題に悩まされていない国は、中東にはほとんど存在しません。一方で、テロ組織の結成や活動には、中東諸国やそれ以外の国の政府が関与していることが容易に分かります。ISISは、これまで世界に存在したテロ組織の中でも、最も暴力的で理にかなわず、それでいながら献身的な組織です。ISISが行っている犯罪は、通常、民族浄化のための戦争の中で見られるものです。しかし、それらのどれも、ISISの暴力的な行動ほど、大規模で複雑なものはありませんでした。そしてこれらはどれも、寛容を象徴とするイスラムの名のもとに行われています。

歴史によれば、イスラム教の拡大に大きな役割を果たしてきたのは、イスラムの預言者ムハンマドの美德です。実際、預言者ムハンマドは、完全なイスラム教徒の象徴、模範であり、このような完全な人間の存在は、イスラム教と預言者ムハンマドの正しさを証明しています。こうして、わずかな時を経て、最小の流血と戦争により、アラビア半島の大部分にイスラムが広がりました。イスラム教は、このような寛容な預言者の存在により、日常のことのよう、また娯楽として人間の首を切ることができる、ISISのような無知で残忍な信者を持つことができるとも言えます。

残念ながら、偉大なる神の預言者たちの信者は、預言者が亡くなった後、次第に神の教えの代わりに、自らの個人的な解釈を据え、その宗教の歴史を捻じ曲げました。ムーサー、イーサー、その他の神の預言者の道は、こうした信者たちによって逸れていってしまいました。こうした逸脱がなければ、人類は違った運命をたどっていたことでしょう。

イスラム教も、その例外ではありません。預言者ムハンマドが亡くなった後、イスラムも個人や集団に都合のよい解釈や逸脱に陥りました。預言者ムハンマドの後継者として、シーア派初代イマーム、アリーが為政者となったとき、イスラム社会の3つのグループが、アリーとの戦いに立ち上がりました。そうしたグループの一つが、ナフラヴァーンという戦いで出てきたハワーリジュ派です。彼らは預言者と聖典コーランに関する勝手な解釈により、イマームアリーに対して反乱を起しました。現在の一連の過激派の流れは、このハワーリジュ派として捉えることができます。

ハワーリジュ派やタクフィール主義の根には、彼らが宗教を暴力的に解釈していることがあり、イスラム教徒が彼らと同じ考えを持たないことを、不信心の罪と見なし、殺害します。また、ハワーリジュ派とタクフィール主義に存在する、民族的な偏った考え方では、彼らに近い人々でさえ、敵対されます。そのため、過激派の模範は、全てのイスラムのすべての宗派を非難するハワーリジュ派の行動にあると言えるでしょう。現代の暴力的で偏った行動は、イスラム初期のハワーリジュ派の行動の結果と同じように、イスラム教徒の弱体化につながることでしょう。

ISISは、サラフィー主義のタクフィール思想を持つグループであり、彼らの思想は、ムハンマド・イブン・アブドルワッハブらの思想に根差したもので、その最大の支持者は、中東地域やそれ以外の地域の一部の政府、つまり、現在、中東で ISIS との戦いを謳っている政府です。ISISの誕生の経緯を見れば、サウジアラビアと一部のアラブ・西側諸国の政府の関与が、より明らかになるでしょう。

ISISは武装勢力であり、タクフィール主義の過激な思想を持つサラフィー主義に含まれ、シリアやイラクに、いわゆる『イスラム政府』を樹立しようとしています。このグループは、2006年10月15日、イラクの武装グループによる会合の後に結成され、この会議で、アブ・ウマル・バグダディという人物を指導者とすることが決定されました。

ISISの誕生のきっかけは、2003年のアメリカによるイラク侵攻後の情勢変化に遡ります。アメリカの攻撃は、アルカイダ系のグループや、新たな状況に反対する旧バース党勢力など、イラクで多くの武装グループが誕生し、彼らが活動を行う状況を整えました。これらの武装グループは、資金や人材を集め、アメリカ軍やイラク政府軍と戦おうとしました。こうしたグループの中でも代表的なのが、2004年に誕生した、アブ・ムサブ・ザルカウィを指導者とするタウヒードとジハード集団です。

ザルカウィは、アルカイダの指導者、オサマ・ビン・ラディンに忠誠を誓い、イラクの聖戦アルカイダ組織を結成しました。この組織は、イラク各地の市場での爆弾テロ、モスクやイマーム廟の破壊など、残忍で大規模なテロ作戦を行いました。こうしてテロ活動を拡大し、イラクで最強のテ

ロ組織となり、多くの地域で影響力を高めていきました。

2006年、ザルカウィは、アブドルラシド・バグダディを指導者とするムジャーヒディン評議会を創設しました。この年、アメリカ軍によってザルカウィが殺害されると、アブー・ハムザ・アル＝ムハーシルがその後継者となり、2006年末には、アブ・ウマル・バグダディを指導者とするイラク・イスラム国が結成されました。

イラクでのISISの最大の努力は、政府に反対する勢力を連帯させることにありました。中でも最大の勢力は、バース党の残党勢力と一部の部族勢力です。そのためISISは、イラクの旧サッダーム独裁政権の残党勢力を伴ったアルカイダ系の組織であり、イラクでテロを行うことによって、内戦や宗教的な対立を引き起こそうとしています。

人々の抗議や不満の拡大により、イラク政府は、部族の勢力を総動員し、アルカイダの影響力や支配を縮小させました。2010年のアブ・ウマル・バグダディの死により、このグループによるイラクの情勢不安は大幅に減少しました。それにも拘わらず、アブ・バクル・バグダディがこのグループの指導者となったことで、イラクで新たな段階のテロ作戦が始まりました。この続きは、次回のこの番組でお話することにいたしましょう。

<http://bit.ly/1zZM7Qx>

## ISISの活動拡大後の出来事

(イランラジオ日本語放送 2015.03.01 21:31)

今回のこの時間は、ISISがどのようにして誕生したのか、またISISの活動拡大後、中東の政治関係がどのように変化したか、そして西側諸国がどのように関与したかについてお話することになります。

前回の番組では、ISISのタクフィール主義の思想と、この組織の誕生の経緯についてお話ししました。この組織が正式に存在を発表したのは、2006年のことです。とはいえ、その名称はISISではありませんでした。イラクで8年間、一部のタクフィール主義のテログループが連帯し、その後、「イラクとシャームのイスラム国（ダーイシュ）」と名乗る組織が生まれたのです。このグループは、「アッラーの他に神はなく、ムハンマドはアッラーの預言者」と書かれた旗を掲げ、イスラム・カリフ制の復活を自らの目的として宣言しました。このグループはその目的のために、自らの活動の場をイラクから、シリアやレバノンにまで広げました。

ISISは、もともと、アルカイダ系のグループでしたが、2010年にアブ・ウマル・バグダディが死に、アブ・バクル・バグダディが新たな指導者となると、イラク、その後にシリアとレバノンで、新たなテロ作戦が展開されました。

2011年末にシリア危機が始まってから数カ月後、アブ・ムハンマド・アル・ジャラニを指導者と

する「ヌスラ戦線」という組織が生まれました。この組織は、シリアにおいて、サウジアラビアやカタール、トルコといった一部の地域諸国の大規模な支援を受けています。ヌスラ戦線はこれまで、武器による攻撃、残忍な犯罪やテロ作戦を数多く行ってきました。ヌスラ戦線と I S I S は、どちらも過激なタクフィール思想を持っています。またこの2つのグループは、アルカイダに忠誠を誓っていました。

I S I S が拡張主義的な目的を追い求めて、シリアに軍勢を送ったときから、ヌスラ戦線との対立が始まりました。なぜならどちらのグループも、相手側を、自分たちの立場を脅かす存在として警戒していたからです。この中で、アルカイダも、シリアからの I S I S の撤退を求めました。これにより、アブ・バクル・バグダディは、アルカイダの指導者ザワヒリへの忠誠を取り消し、その指示に従わなくなりました。その一方で、ザワヒリも、バグダディの暴走を阻止するため、I S I S の崩壊を目指しました。

時の経過と共に、アルカイダと I S I S の対立が非常に根深いものであることが明らかになりました。バグダディは、2011年にアルカイダの指導者オサマ・ビン・ラディンが殺害された後、ザワヒリをアルカイダの指導者とは認めなかった一人です。最終的に、2014年2月2日、アルカイダ総司令部の文書の声明によって、I S I S はアルカイダとは関係がないとされました。

こうして I S I S は、アルカイダとは別のテロ組織として、自分たちの目的を推進するために暴力的なテロを用いる過激なタクフィール思想を持って生まれました。I S I S は、アルカイダと比べると、より強硬な活動や方針を持っています。それは、このグループの最初の指導者であったザルカウィの影響でしょう。ザルカウィの戦略は、イラク国内の内戦、シーア派の民間人の殺害、シーア派とスンニー派の対立、部族対立といったもので、彼の後にも、このような卑怯なやり方は継続されました。

I S I S はアルカイダと同じように、世界中から戦闘員を集めようとしてきました。現在、I S I S には、世界5大陸の出身者が集まっています。ここで、彼らがどのような動機を持って、様々な国から I S I S に加わるためにやって来るのかをお話する時間はありません。しかしこれについて注目すべきなのは、テロ対策を声高に叫ぶ西側諸国が、イラクやシリアの I S I S へ、彼らの加入を促しているということなのです。

欧米諸国の数千人の人々が、I S I S に加わるためにイラクやシリアに渡っていながら、これらの国の治安機関が、それに気づいていないはずはありません。2001年のアメリカ同時多発テロ事件以降、C I A（アメリカ中央情報局）は、ヨーロッパの情報機関と協力し、世界中で、時には飛行機の中から、不審なメールや電話の会話を理由に数十人を逮捕しました。彼らは、尋問のために、ヨーロッパをはじめとする世界各地の秘密刑務所に移送されました。これらの秘密刑務所の存在やそこでの拷問が明らかになったことは、後にアメリカ政府や一部のヨーロッパ政府にとって大きな不名誉となりました。こうした中、アメリカとそのヨーロッパの同盟国が、自国の出身者が I S I S に加わっていることを知らないなどということができるのでしょうか？彼らはシリアやイラクで人道に反する犯罪を行っているのです。

シリアやイラクでの I S I S など、テロ組織との戦いを標榜する西側政府の虚言を示す、また別の事例は、アメリカ人ジャーナリストのジェームズ・フォーリー氏を殺害した人物が、その声を聞いただけで特定されたことです。フォーリー氏が首を切られて殺害され、その殺害の実行者が話す映像が公開された後、イギリスの各紙は、「フォーリー氏を殺害したのは、ロンドン出身のイギリス人の若者だ。彼は過激派組織で訓練を受けた後、シリアに派遣された」と報じました。このイギリス人テロリストの名前はジョン、BBCによれば、I S I S 系のグループを統率し、数名の女性を含む西側の出身者 20 人を拉致したということです。イギリスのキャメロン首相は、この映像の公開後、この犯罪の実行者がイギリス出身者の可能性があることを認めました。

西側の政府やメディアは、I S I S の外国人メンバーを、その声から特定することができるのに、なぜ、声よりもずっと簡単な兆候から、西側出身の I S I S のメンバーを特定したり、彼らのイラクやシリアへの渡航履歴を監視することができないのでしょうか？

シリアやイラクにおける西側政府の政策によって、テログループは強化されています。西側は、I S I S を支援していないと表明していますが、彼らの支援は、I S I S の手に渡っています。このような支援は、資金、武器、情報、訓練といった形で、サウジアラビア、カタール、トルコ、その他、西側数カ国によって提供されています。

新たな報告は、I S I S の活動について把握していないとするアメリカ政府の主張にも拘わらず、C I A は、2 年前から、ヨルダンのキャンプで、I S I S のメンバーの訓練を始めていたということをも物語っています。ベテランズ・トゥデイのゴードン・ダフ氏は、「アメリカは、タクフィール主義のテロリストがイラク北部のモスルに移動しているのを知っていた。アメリカは、このグループの武器がどこから供与されているかをよく知っている。これらの武器は、サウジアラビアやヨルダンから送られており、イスラエルからもこの地域に移送されている」としています。

アメリカのクリントン元国務長官の回想録の中で、アメリカの I S I S への支援を示す証拠を目にすることができます。そこには次のように書かれています。

「我々は、中東を分割するために I S I S を誕生させた」

また、別の箇所には次のようにあります。

「我々は、2013 年 7 月 5 日、ヨーロッパの同盟者との会合で、イスラム国を正式に認める予定だった。私は 112 カ国を訪問し、アメリカの役割を説明すると共に、この組織が創設された直後に、“イスラム国”を正式に認めることについて、ヨーロッパの一部の同盟国と合意した」

また、アメリカ国家安全保障局の職員だったスノーデン氏は、これについて、次のように話しています。

「アメリカ、イギリス、イスラエルの情報機関は、イラクとシャームのイスラム国の創設に関わった。彼らは『スズメ蜂の巣 (Hornet nest) 』と呼ばれる作戦で、I S I S を誕生させた」。

スノーデン氏は、以前に暴露した文書の中で、

「I S I Sは、イスラエルを支持するために結成された。『スズメ蜂の巣』作戦の目的は、強硬派の人々を世界中から集め、タクフィール思想に基づいて、イスラエルに反対する国々に武器を向ける、イスラムをスローガンに掲げる組織を結成することだ」

としています。

<http://bit.ly/18CNcZe>